

## 第4回宗像市行財政改革推進委員会 議事録（要点筆記）

日時	平成27年2月13日（金）19時00分～20時30分	会場	第2委員会室
委員	□宗像 優（会長） ■狭間 流（副会長） ■下田 真也 □山下 永子 ■吉田 晴希（五十音順、敬称略）		
市	■中野経営企画部長（事務局：経営企画課） ■塔野経営企画課長 ■田中主幹兼企画係長 ■立花行政評価係長 ■寺嶋		

### 1 開会あいさつ

○宗像会長が急きょ欠席となったため、副会長である狭間委員が代理であいさつ以降の議事進行も狭間委員

### 2 報告

#### (1) 第3回宗像市行財政改革推進委員会の議事録要旨について

○事務局より内容に修正等がある場合は2月20日（金）まで連絡をいただくよう依頼

#### (2) 財政安定化プランと行財政改革の関係について

○事務局より説明

##### 【委員】

今回の財政安定化プランの収支計画にはアセットマネジメントによる経費と行財政改革アクションプランの効果額が見込まれているということか。

##### 【事務局】

アセットマネジメントの投資的経費については、財政安定化プランの収支計画、成り行きともに見込んだところの数値となっている。行財政改革アクションプランの効果額については、収支計画には織り込んでいないため、効果があがれば、その分収支の改善が見込めるということである。

#### (3) 公共施設アセットマネジメント推進計画の概要について

○事務局より説明

##### 【委員】

「将来世代に過度な負担を残さず、適正な資産を引き継いでいく」ということだが、将来的な人口等を考えた時に、公共施設及び公共インフラの総量をどのようにもっていくかということはある程度決めてやっていかないといけないと思うが、30年の計画でそのあたりをどう考えているのか。

##### 【事務局】

現在アセットマネジメントの審議会で審議途中であるため、終了している部分までになるが、

まず道路や橋、既に整備している下水道等の公共インフラについては、生活に関わるものなので、無くしていくということではなく、予防保全型という形で、早期に点検して長く使っていき、安全性を第一に長寿命化を行っていくという方針である。

公共施設については、将来人口が減っていくなか現在の施設が要るのかというのはご指摘のとおりであり、審議会の中でも将来人口推計も出していきながら審議しているが、その他にも利用度合いや利用者の年齢区分、人口予測など施設の利用予測をしながら、施設の維持更新時の目標を立てていく。その結果、延床面積を少なくするという考え方もあれば、施設を機能別にすることで集約化、また複合化という形についても検討するというところで議論している。

#### 【委員】

現時点では、将来的に例えば2割減らすということではなく、状況を見て減らしたり減らさなかったりということか。

#### 【事務局】

公共施設を更新時に何割圧縮するかということは、個々の事例になると考えている。全体については、現時点では数値目標はまだ定まっていない。長期的な財政運営において、このまま施設を維持して更新したときに財政計画にはまるのかはまらないのかというところで現在試算している。

#### 【委員】

将来を考えた時に、財政計画にはまらなければやらないが、はまるならばやるというのは後追いでないか。将来的に施設についてはこれだけのキャパが必要となり、財政的にこれだけ不足するからどうするかということを考えないと、状況に応じてキャパを変えていくなら、長期計画といいながら、その意味合いが薄れてくるのではないか。

#### 【事務局】

財政的には、30年の財政見通しの枠の中にはまるようにあらかじめアセットの投資枠を確保しており、その枠の中にはまるように施設設備の維持更新計画を立てていく。そのための手段として、例えば複合化、集約化、民活化や面積削減など経費の削減策を視野に入れて今仮積算を行っている。

また、人口減少問題も大きく関係してくるが、公共施設には様々な用途の施設があるので、維持更新計画には人口減少だけではなく、政策面も含めた利用頻度等も大きく関係してくる。例えばスポーツ施設だと、スポーツを通じた健康づくりを行う市民を増やしていこうとか、文化施設だと文化に携わる市民を増やしていこうとかそういった政策的な要因もかなり影響してくる。従って単なる人口減少だけではなく、政策的なソフト事業も勘案する必要があると考えている。

#### 【委員】

公共施設と公共インフラはまったく同じような工程でやっていくようだが、性質が異なるのではないか。計画では5年ごとに評価見直しとなっているが、公共施設はもう少し短いスパンで行っていく必要があるのではないか。

#### 【事務局】

現状として公共施設を新しく建てようとしたら、計画してから着工して建つまでに、内部意思決定を含めて3年から4年かかる。そういったことも考えると、5年で見直しというのは妥当であると考えている。

#### (4) 第3次行財政改革アクションプラン（案）概要部分について

○事務局より第3次行財政改革アクションプラン（案）の1～3ページについて説明

### 3 協議

#### (1) 第3次行財政改革アクションプラン（案）個別アクションプランについて

○事務局より第3次行財政改革アクションプラン（案）4ページ以降について説明

##### 【委員】

全体的なことになるが、財政安定化プランと行財政改革アクションプランの関係だが、財政安定化プランの収支計画にはアセットマネジメントの投資的経費は見込みまれているとのことだったが、行財政改革アクションプランの効果を入れると、収支計画はどのように変化するのか。

また、行財政改革大綱の計画期間である5カ年を過ぎたときに財政状況が大変厳しくなってくるということであれば、あらかじめ5年以降も含めてコスト削減額を決めて、そしてそれくらい削減をしないと財政が厳しくなるというものを示す必要があるのではないか。

##### 【事務局】

まず、行革アクションプランを行うことによって、財政安定化プランの成り行きと収支計画の乖離幅がどれくらい埋まるかということだが、資料【別紙3】の効果目標額一覧の年度ごとの合計額がそのまま当てはまると考えていただいよい。

また、財政的に将来的なことまで考えなければいけないのではということであるが、財政安定化プランでは当然収支のバランスが崩れることは良くないと考えており、実際は収支バランスが刻々と変化しているが、その変化を見据えて収支計画については時点修正していくことになり、現時点ではこれが一つの目安になっているということと考えていただきたい。

### 4 今後の予定

#### (1) 第3次行財政改革アクションプラン

○このあと、事務局で最終調整をした後、行財政改革推進本部に諮り、今年度中に確定させて、平成27年度から着手する予定。進行管理については、半年を過ぎたころに内部の組織である市長をトップとする行財政改革推進本部に中間報告を実施し、結果については平成27年度実施終了後の平成28年夏前頃に行財政改革推進本部及び行財政改革推進委員会に報告をしたいと考えている。

#### (2) 行財政改革推進委員会

○今年度は第4回をもって終了とする。平成27年度の予定としては、平成26年度出納閉鎖後の平成27年6月から7月の間で、平成26年度の実施結果及び第2次行財政改革の総括をしていただきたいと考えている。その後は、補助金・負担金の見直しをしていただきたいと考えている。

## 5 その他

○平成 26 年 12 月 7 日(日)～平成 27 年 1 月 14 日(水)の期間で実施していた「第 3 次宗像市行財政改革大綱(案)」のパブリックコメントが終了した。提出された意見は特になかった。